

2013-2/11

# ギャラリーサージ オープニング企画展 仮想としての美術



大谷徹平著『美術の本』

(著者) 大谷徹平  
(刊行年) 2011年

(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(著者) 大谷徹平

(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

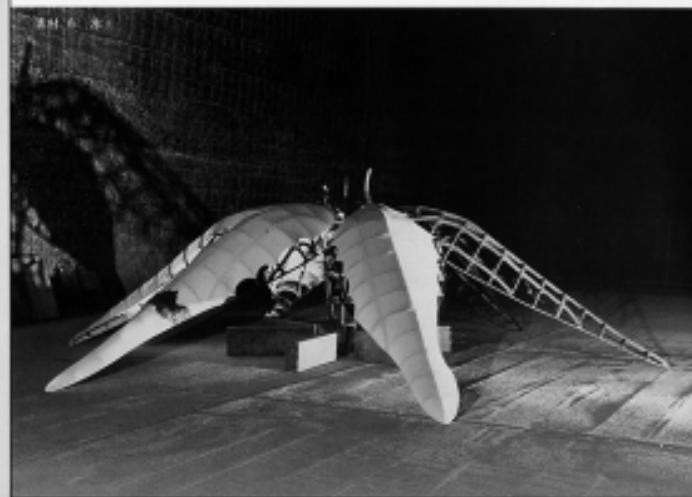
(著者) 大谷徹平  
(出版社) ハヤカワ・ブック・ワールド

2013-2/18

■ GALLERY

Surge ■

- '86 沖縄に生れる  
 '85 プリントワークス(カルサイドギャラリー/代官山)  
 2人展(かねこ・あーとG/京橋)  
 スタッフド・スタイル(カルバンH/神田)  
 プリントワークス(ART SAIPCE KIRHO/八王子)  
 '86 高・事・通・交(パレルゴンII)  
 個展(小野画廊/銀座)  
 大谷地下美術館'86(宇都宮)  
 桜花な細部(ART SPACE KIRHO)  
 個展(かねこ・あーとG)  
 '87 Four Works (ながす画廊/銀座)  
 被水の危機(パレルゴンIII)  
 個展(小野画廊)  
 大谷地下美術館'87(宇都宮)  
 '88 '88クロッシングパートII(かねこ・あーとG)  
 イメージ・トーナメント(カルバン)  
 個展(かねこ・あーとG)  
 個展(スペースアート/新潟)  
 大谷地下美術館'88(宇都宮)



高・事・通・交(パレルゴンII)

- '84 東京都生みよ  
 '79 東京藝術大学美術学部油絵専攻卒業  
 '81 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油絵専攻修了  
 '86 同大学院博士後期課程美術専攻油絵研究領域修了  
 博展  
 '82 ギャラリー山口/東京  
 '83 ギャラリー山口/東京  
 '84 ルナミ画廊/東京  
 '85 東京藝術大学彌生館/東京  
 '87 芳松画廊/東京  
 '88 ギャラリーNIPPONハウス/東京  
 グループ展  
 '84 カーデナーリース/ギャラリー山口/東京  
 '85 PRINTS NOW '85展(ギャラリーガムクション/名古屋)  
 '86 第2回「版」と「版画」の表現展(西武百貨店法華町美術画廊/東京)  
 '87 生命の觀察(千葉県立美術館/千葉)  
 現場: '87(仙台県美術館)  
 '88 有吉徹・島久幸 collaboration works "the inter-personal"  
 (横山画廊/東京)  
 芳松の愛釋 '88 (北九州市立美術館/北九州)  
 (埼玉県立近代美術館/埼玉)  
 大谷地下美術館'88(宇都宮)

有吉 徹

2/1-2/11





高村直哉、高村直哉

- '53 京都府生まれ  
 '76 多摩美術大学短期科学業  
 '78 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了  
 個展  
 '77~'82 桜の木画廊(東京)  
 '83 ギャラリー・アメリア(東京)  
 '84~'85 ギャラリー・K(東京)  
 '86 ルナミ画廊(東京)  
 '87 ギャラリー・射手座(京都)  
 猿山画廊(東京)  
 '88 画廊バーゲンII(東京)  
 ギャラリー・射手座(京都)  
 アート・ハウス(群馬)  
 '89 ルナミ画廊(東京)  
 グループ展  
 '77 第13回現代日本美術展(東京都美術館・京都府美術館)  
 '83 第4回南北東美術展(松本屋堂美術館)  
 '84 同時代性の発話(第5回京阪近代美術館・柏原市美術館)  
 '85 現代のユーキア(第5回京阪近代美術館企画展示会)  
 '86 バジック画廊(スパース・ポイント)(パリ)  
 '87 ルナミ・セレクション'87(ルナミ画廊)(東京)  
 '88 Collection フィームージ・トランシーヴー(画廊バーゲンII(東京)

## '55 兵庫県生まれ

- '86 シャリー(鹿児島・東京)  
 '87 ウィンディー・スペース(滋賀県・東京)  
 '88 ウィンディー・スペースⅡ(G·ARTギャラリー・東京)  
 ウィンディー・スペースⅢ(コバヤシ画廊・東京)  
 ウィンディー・スペースⅣ(法政大学・東京)  
 '89 ピクニックの資料展(女子美術館・東京)  
 ウィンディー・スペースⅤ(田村画廊・東京)  
 ウィンディー・スペースⅥ(後の日本人・東京)  
 '91 ショドウ・ワーカ(アイントフォーヘン・オランダ)  
 ショドウ・ワーカ(デ・カルペル・オランダ)  
 ショドウ・ワーカ(サンハーダ・オランダ)  
 '97 ショドウ・ワーカ(村松画廊・東京)  
 '98 ショドウ・ワーカ(ヨバヤシ・画廊・東京)  
 ショドウ・ワーカ(ギセラーリ・コレクションⅢ・東京)



SURGEのオープニング展として 有吉徹、井上哲、松本雅之、出口道吉、4氏の個展

「仮想としての美術」展を企画しました。現代美術もここ数年、管理化社会を反映してか個人よりと行為の良い作品が増えつつあるようにもおもえます。こうした傾向をいささか不思議な感じでいる人も多いのではないでしょうか。このような状況の中で頑固な仕事を続ける4氏。それぞれ表現スタイルは異なるが彼等の作品に多くの可能性を感じつつ随感

有吉は、一貫して《まなざし》の構造をテーマとしてきた。彼は事物の認識を見ることからとし、絵画と写真のまなざしの比較に端を発し、自身の作品では、異なるメディアのシャドウ・ワード、記号、文字を用い、画面に重層させることによりメディアと其間関係にある鑑賞者へ透明なまなざしの所在を問い合わせている。また昨年『万象の変様展』でみせた作品へのシャドウ・ワード、相互干涉によるまなざしの解体作業や『大谷地下美術展』での仕組みとしての管理社会への問題提起は、理論と実践の展開として興味深いものである。

井上の作品は、一見、巨大な翼のオブジェの様にも見える。組まれた木枠とリブによって張られた布、それがつくりだす曲線は美しい。洗練された構造美を追求している彼の仕事は、年々精緻さを増し非常に完成度の高いものになっている。

松本は、作品の中に廃油や模型やサイルを用い痛烈な社会批判を展開してきた。それは政治的問題というより愛人関係にも似た芸術と社会の関係に対する彼の怒りでありそれを機械でもあるように思える。無造作に打ち込まれ廃食した真っ直ぐのオブジェ、その中に浮かぶ黒い廃油の渦り、その油面を興味津々と覗く。結果として油面には顔が映るだけである。

無残にも鑑賞者の夢は打ち砕かれた。この虚無的関係《水たまりの構造》に松本の狙う虚実としての藝術への告発が描かれているようにおもえる。

出口は、影を追い詰めている数少ない作家の一人である。彼にとって影は立体の投影ではなく影そのものの存在を追究している。影と影この相間関係に彼がどのようなメスを入れるか重厚な彼の作品の展開が楽しみである。

4氏とも異なるスタイルをとっているが批判的視点は、共通している様に思える。美術は、ますます多様性を増し、新感覚時代を迎えた様に見えるがその基盤を考えると手放しては喜べないのが正直な気持です。藝術の基盤を問い合わせし仮想から実相への展開を探る意味でこの展覧会が機になればと思います。

「'83 大阪美術祭」(大阪府立美術館)

「アーティスト・アーキテクト」(東京)

「ベース(基础)」(東京)

「スケルトン・カーラー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

めまぐるしく変動する社会の中で

これほどゆっくりと時間を流すこ

とができるとは……

だしかにそれらは息をしていた。

心臓も動いている。

4人のまったく異なった4つの感性。

様々な呼吸が

きこえるに違いない。

オーナー 渡辺 千恵子

「'83 大阪美術祭」(大阪府立美術館)

「アーティスト・アーキテクト」(東京)

「ベース(基础)」(東京)

「スケルトン・カーラー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

■ギャラリーサージ ■

1989年2月1日

発行 〒101 東京都千代田区麹町2-7-13 港信ビル2F Tel.03-361-2581

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

「アート・アンド・カルチャー」(東京)

2/20-2/25